



山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



2018年の新春は、富士山を照らす初日の出と共にスタートした。

あらゆる災害に強い施設新設検討へ

新年互礼会 栗山理事長、特別委員会で検討

山梨県流通センター新年互礼会は、平成30年1月9日（火）、流通センター第2展示場で開かれ、組合員・来賓合わせて70人を超える参加があった。

冒頭、栗山理事長は、昨年の取り組みに触れ、『当組合は組合員企業が安心して事業できる安全・安心な街、企業活動に最適なまちづくり』を目標に掲げ運営を行い、①組合施設の老朽化が著しいインフラ設備の更新を行った②BCPマニュアルの策定を行い、災害時の情報共有・相互扶助が行える仕組みづくり、また、BCP計画に基づいた5年計画の緊急防災用品備蓄の実施を行った③防犯監視カメラの入れ替え、ライブカメラの新設を行った。（防犯監視カメラは現在工事中であるが、調整前のライブ映像を懇親会の中でご覧いただいた）④BCPの一環として、できれば組合員のための防災拠点として、あらゆる災害に強い施設の新設を未来検討特別委員会で考えていきたいと述べた。

栗山理事長は言葉を継いで、全国の先進卸売団地

との情報・意見交換を通じて、これからの組合運営の在り方等を学んでいき、そして今後更に発展すべく組合員の理解と協力を求め、更なる結束を呼びかけた。

来賓として、後藤知事、中央市の萩原副市長、山梨県中小企業団体中央会の細田会長から祝辞をいただいた。来賓紹介ののち、栗山理事長、来賓11人による鏡開きが行われ、新たな年のスタートを祝い合った。



地震と火災に万全の備え

小田原卸
商業団地

BCP対策を総務委が学ぶ

昨年11月17日（金）、総務委員会（細田俊委員長）を中心としたメンバー8人で、小田原卸商業団地（協）をBCP対策の先進団地として視察した。

当組合は、昨年4月1日に、やまなし産業支援機構の専門家派遣事業を利用して、労働安全コンサルタントで萩原安全研究所所長の萩原正宏氏の指導のもと、組合BCPマニュアルを作成し、その講習会も開催したが、BCP対策の取り組みは始まったばかりである。

小田原卸商業団地（協）への視察目的は①BCPマニュアルの運用方法について②組合と組合員のBCP取り組み状況等について③BCP・防災対策についての今後の課題についてであった。

視察は、午後2時から1時間半の予定で行われ、清理事長以下6人の関係者の方々に対応していただいた。

同組合がBCP対策に取り組んだきっかけは、平成16年10月におきた新潟県中越地震で、死傷者や行方不明者などの人的被害、家屋の倒壊や火災などの物的被害の他に、企業活動が地震により長期間業務中断となり、売上減少等の企業被害が発生したことによるものである。同組合はBCP委員会を設置し、BCPマニュアルの作成には中小企業団体中央会の担当者を中心に3年間の期間を要して完成させている。

その後、BCP委員会は解散し、防災対策委員会を設置しているが、構成員7人のうち2人は青年部「青進会」のメンバーである。防災対策委員会は、年1回、小田原市消防本部の指導のもと団地内防災訓練を青進会と共同で実施し、また、

年3回チェンソーや発電機などの防災器具の点検も行っている。

災害に関して一番心配しているのは、津波だと想像していたのであるが、過去の歴史から地震に伴う火災とのことである。

平成8年に、組合と小田原市が「災害時における生活必需物資等の調達に関する協定」を締結、また、平成26年には、神奈川県下卸団地4団地と「災害時団地間相互応援協定」を締結し相互援助として、物的・人的支援の申し合わせをしているが、具体的な内容は決まっておらず、今後の検討課題もあるとのことである。

また、組合員企業（株）フジミの清社長からは自社の防災への取り組み状況の説明、中小企業団体中央会の担当者からは熊本地震の現状からのアドバイスもあった。

東日本大震災からあと少しで7年目を迎えようとしているが、当組合でも防災意識が薄れないうちに、毎年、備蓄品の買い増しなどの防災対策に努めていきたい。



老朽化対策、熱心に討議

加古川卸団地など本センターで研修

昨年9月26日（火）、阪神総合卸商業団地（協）、加古川卸団地（協）、（協）豊岡卸センターから4名の方々が来局された。

かねてから当組合に対して組合施設の老朽化対策の状況、新規導入予定のWi-Fi（無線LAN）による防犯カメラの設置内容、組合員向けネット配信予定のライブカメラの設置内容、BCP対応状況、今後の事業展開等について意見交換の申し入れがあり、今回の来局となった。

各団地は、共同事業も少なく組合規模からみても多額の投資は不可能な状況であり、老朽化対策が問題となっている。豊岡卸センターは老朽化に加えて、組合員建物の連棟問題を抱えている。

栗山理事長以下事務局員が出迎え、流通会館内を見学後、役員室で当組合の概要説明を行い、予定した課題については質問に答える形で議論が行われた。予定していた2時間は瞬く間に過ぎ当組合での日程を終了した。



卸売団地の魅力アップ提言

東洋大 菊池教授 未来検討特別委員とも意見交換

12月11日（月）午前11時45分から、定例懇談会が流通会館第二展示場で開かれ、組合員31人が出席した。本来ならば10月23日（月）に定例懇談会が開かれる予定であったが、台風21号の影響で延期となつての開催となった。

講師は、東洋大学経営学部マーケティング学科菊池宏之教授で、テーマは「卸売経営と卸団地組合を取り巻く環境変化と課題」。卸団地の組合員には興味深い内容の講演会となった。

菊池教授は、全国卸商業団地協同組合連合会の「卸商業団地機能向上支援事業」にも関わっておられ、『「卸商業団地の課題解決策と活性化のための調査研究」— 卸商業団地の明日への発展の条件 —』報告書の中で、活性化策によって魅力ある卸商業団地をいかに形成していくかについて示された。解決策の中で提言されている内容について説明された。次にレジメに沿って、「流通産業を取り巻く環境変化」、「人生100年時代の老後・働き方・お金の使い方の変化」、「外部環境変化に対応した経営の課題」、「米国における卸売業の変革と発展」、「先進事例をも含めた卸売生き残りの課題」について述べられた。

その後、未来検討特別委員会が開かれ、菊池教授を囲んで意見交換会を行い、委員会が取り組んでいる課題について、先生から貴重な助言をいただいた。

栗山理事長など表彰される

全国卸団地
組合連合会

50周年記念式典に華そえる

当組合が加盟している上部団体「全国卸商業団地協同組合連合会」は昭和42年に創立、本年度で50周年を迎えることとなった。商団連加盟の組合数は101組合で、卸商業団地間での「一体性の維持」を補完するために、地域単位で開催される会議や商団連主催の会議等で、卸商業団地の課題や取り組み状況、組合運営の参考となる情報や意見交換を行い、商団連を中心とする卸商業団地全体としての一体感の醸成を図っている。

昨年11月21日（火）、商団連創立50周年記念式典開催にあたり、本センターの次の4名が表彰された。

経済産業大臣表彰 栗山直樹理事長
中小企業庁長官表彰 細田俊副理事長

中小企業基盤整備機構理事長表彰 中込裕副理事長
全国卸商業団地協同組合連合会会長表彰 加藤晃生元常務理事
おめでとうございます。



◀写真は左から橘高克和理事長（佐世保卸団地（協））桑原功理事長（（協）秋田卸センター）、中小企業庁安藤久佳長官、清康夫理事長（小田原卸商業団地（協））、栗山直樹理事長（（協）山梨県流通センター）、小椋徹範理事長（（協）津山卸センター）

県共同募金会へ売上金104,723円寄付

センターで バザール 人気上々、大人も子どもも大喜び

第18回「センターでバザール」が昨年9月2日（土）午前9時に流通会館、会館前駐車場をメイン会場に開かれた。

会館内の物販コーナーには衣料品、靴、バッグ、傘などの身の回り品から、お菓子、パン、ゼリーなどの食料品まで幅広い商品が並べられていたが、用意した商品を早々と売りつくしてしまう組合員もあり大盛況となった。

イベント会場では、保育園児によるマーチングや中学校吹奏楽部による演奏、その他サイコロゲーム、○×クイズ、チラシ持参抽選会、ビンゴ大会が行われた。特に1等賞品にシンガポール旅行が用意されたビンゴ大会は、大盛況となった。

毎年売上金を全額「赤い羽根共同募金」へ寄付している

バザーブース（企業・従業員提供）は、お買得商品を求める人で開場早々から行列ができた。バザーブースの売上104,723円は山梨県共同募金会へ贈呈された。多くの方からご協力をいただきありがとうございました



▲写真左側は赤い羽根共同募金 佐野光一 常務理事



スイーツで仲良く話し合い

社員
交流会

各社から104人が参加

第7回社員交流会（小林愛直運営委員長）が昨年12月8日（金）、流通会館第1・2展示場で開かれ、104人が参加した。

今回は県内有名洋菓子店のスイーツと（株）富士メディカルサービスの美味しい食事、そしてマグロー本を用意し、その場で解体ショーを行った。マグロの解体ショーが始まると、マグロの周りには多くの人が集まり、30キロのキハダマグロが見事に捌かれていくのを見入っていた。

LoMAの会と運営委員が企画したイベント「ロシアンゲーム」「スクラッチじゃんけん」「抽選会」は、社員同士の会話のきっかけにもなり、楽しんでいただくことができた。

今後も新しい企画を取り入れながら、皆が楽しめるイベントを行っていききたい。



運営委員及び景品提供にご協力いただいた企業

（株）アドヴォネクスト／（株）イイダ／（株）オオキ／（株）ケーアイ／（株）栗山商店／甲信商事（株）／甲信食糧（株）／（株）システムインナカゴミ／CIH（株）／（株）スズケン／（株）日医工山梨／（株）羽中田自動車工業／BE・ナショナル（株）／（株）富士メディカルサービス／（株）文祥堂オフィスファシリティーズ／マコト医科精機（株）／（株）丸栄／（株）マルモ／（株）RITZ／山崎製パン（株）／（株）山梨中央銀行／ユーシーシーフーズ（株）／（株）渡辺商店

団体はむろいAが優勝

ボウリング大会 個人は、伊藤明里さんがトップ

第21回流通センターボウリング大会が甲斐市の大統スターレーン双葉で行われた。今年度は6月13日、16日、22日、27日まで東西南北のブロック予選大会、7月11日には決勝大会が行われた。

参加人数は19社から209人で、7月11日の決勝大会には4ブロックから24チームが参加し、白熱した戦いが繰り広げられた。

試合の結果、団体の部ではむろい(株)Aが優勝し、2位は(株)文祥堂オフィスファシリティーズ、3位は甲信食糧(株)Aとなった。

個人の部は伊藤明里さん(むろい(株))が2ゲームトータル424で優勝した。



▲優勝したむろい(株)Aチーム



▲準優勝した(株)文祥堂オフィスファシリティーズチーム



◀個人の部優勝の伊藤明里さん

団体の部 (2ゲームトータル)

※敬称略

順位	会社名	メンバー	スコア
優勝	むろい(株)A	村松、入倉、望月、伊藤	1,455
準優勝	(株)文祥堂オフィスファシリティーズ	五味、中島、村松、深沢	1,248
3位	甲信食糧(株)A	中込、須玉、秋山、野田	1,241

個人の部 (2ゲームトータル)

順位	氏名	会社名	スコア
優勝	伊藤明里	むろい(株)A	424
準優勝	村松貞義	(株)文祥堂オフィスファシリティーズ	382
3位	伊藤ひとみ	(株)サン宝石B	367

団体はマルモAが優勝

北ブロックボウリング大会 個人は渡辺今朝緒さんがトップ

北ブロック懇談会の第10回ボウリング大会が11月24日(金)、ダイトースターレーン双葉で行われた。今回は8社から21チーム、計89人が参加した。

団体の部はマルモAが2ゲームトータル1297で優勝し、個人の部は渡辺今朝緒さん(株)ケーアイ)が2ゲームトータル361で優勝した。



▲優勝した(株)マルモAチーム

団体の部 (2ゲームトータル)

※敬称略

順位	会社名	メンバー	スコア
優勝	(株)マルモA	神田、穂山、廣瀬、小林	1,297
準優勝	マコト医科精機(株)	有泉、藤原、古屋、斉藤	1,220
3位	(株)日新厨房企画	杉本、河野、田中、小澤	1,204

個人の部 (2ゲームトータル)

順位	氏名	会社名	スコア
優勝	渡辺今朝緒	(株)ケーアイ	361
準優勝	小林完	(株)マルモ	356
3位	河野洋揮	(株)日新厨房企画	346



▲個人の部優勝の渡辺今朝緒さん

お客様の気持ちが分かった

社員研修会 中央市商工会と当組合がコラボ

昨年9月28日（木）、中央市商工会・当組合協賛の社員研修会「トップ営業が隠したがる最強の説明力セミナー」が流通会館で開かれ56人が参加した。

講師は「ちいさな会社」の経営コンサルタント吉見範一氏。経験豊富な講師の体験談を交えながらの講演に「話す時のポイントや相手のことを聞き出すテクニックを知ることができた」「お客様の気持ちが分かった」「参考になる部分があり、今後の営業に活かしていきたい」との声が寄せられた。教えていただいた「話す速度と音量と声のキーを意識して話す」という基本を忘れずに、今回の講演内容を今後の営業活動に活かしてもらいたい。



大相撲9月場所を満喫

組合従業員など13人が参加

組合の初めての試みとして組合員、準組合員及び従業員とご家族を対象にした大相撲観戦バスツアーを昨年9月10日（日）に実施し、6社から13人の参加があった。

両国国技館での九月場所初日ということで会場はとてにぎわっており、参加者たちもそれぞれに楽しい思い出になったようだ。大相撲はその後、不祥事が続き大揺れとなっているが、体制の刷新を図り健全な組織としての再生を祈念したい。



392人が予防接種受ける

インフルエンザ対応充実

インフルエンザの流行に備えて、昨年11月2日（木）、6日（月）、7日（火）の3日間、組合員・準組合員企業の従業員とその家族を対象にインフルエンザ予防接種を行った。

今年度で3回目の実施となり、昨年度の申込み人数を大きく超える392人（昨年323人）の申し込みがあった。

※今期はインフルエンザが猛威を振っていて、厚生労働省の2月2日の発表によると、推計患者数は、274万人。しかもA、B型などの複数の型のウイルスが同時流行している。手洗いや、睡眠・休養を充分にとり、人混みに行かないなど気をつけて、対策をとりましょう。



側溝の泥きれいに片付く

中央市 団地内の清掃活動展開

昨年11月27日、昨年度、組合が中央市に要望していた側溝清掃のうち、特に泥が多く溜まっている会館前南側の側溝清掃が中央市指定業者により実施された。

会館前の側溝部分は、以前から落ち葉や泥が溜まりやすく、平成26年7月に中央市・甲斐市の一部を襲った短時間豪雨のときには、側溝が雨水を飲み込めず、道路を冠水する状況となっていた。

20～30cm程度の厚さとなった泥は、側溝清掃により、きれいに取り除かれ、環境整備が促進された。



組合員変更事項

会社名	変更前	変更後
(株)コーエイ	社長 小田切 寛	社長 東元 眞一

準組合員変更事項

会社名	変更前	変更後
(株)山梨ミツウロコ	ミツウロコ(株)山梨支店	(株)山梨ミツウロコ

準組合員の加入・脱退

準組合員名	加入・脱退別	住 所
(株)KFKファクトリー	加入	流通団地2-7-1

『事務局日誌』 8～12月の主な会議等～

- ◆8月 1日 正副理事長会議
3日 西ブロック懇談会
10日 リサイクル・一斉清掃日
21日 北ブロック懇談会
23日 青年部「L o M Aの会」懇談会
- ◆9月 2日 センターでバザー
5日 正副理事長会議
7～8日 商団連事務局長会議
10日 大相撲観戦バスツアー
11日 生活改善委員会
12日 リサイクル・一斉清掃日
13日 理事会
21日 未来検討特別委員会Bグループ会議
22日 未来検討特別委員会Aグループ会議
26日 加古川、豊岡、阪神卸団地来局
28日 社員研修会（商工会との共催事業）
- ◆10月 3日 研修・厚生委員会
4日 正副理事長会議
5～6日 新入社員フォローアップセミナー
11日 社員交流会のための「L o M Aの会」会議
12日 リサイクル・一斉清掃日
12日 生活改善委員会
13日 北ブロック懇談会
16日 生活改善委員会責任者会議
25日 生活改善委員会
26日 全国中央会全国大会
26日 社員交流会運営委員会会議
- ◆11月 2日 インフルエンザ予防接種（6、7日）
4～5日 フォークリフト免許取得講習
6日 職業訓練「会計講座」（14日まで）
7日 正副理事長会議
8日 社員交流会運営委員会会議
9～12日 青年部「L o M Aの会」海外視察
11～12日 フォークリフト免許取得講習
15日 理事会
15日 社員交流会運営委員会会議
17日 小田原卸商業団地（協）を視察
21日 商団連50周年記念式典・表彰式
24日 北ブロックボウリング大会
28日 社員交流会運営委員会会議
28～29日 商団連関東ブロック会議
- ◆12月 1日 北ブロック懇談会
4日 東ブロック懇談会
5日 正副理事長会議
7日 未来検討特別委員会Bグループ会議
8日 社員交流会
10日 南ブロック懇談会ゴルフコンペ
11日 定例懇談会
11日 未来検討特別委員会
12日 リサイクル・一斉清掃日
15日 未来検討特別委員会Aグループ会議
15日 南ブロック懇談会
29日 大掃除 仕事納め

かいがね

時折テレビのワイドショーを見るときもなく見ることもある。そこで取り上げられるのは、芸能人や政治家の不倫、犯罪などの不祥事ネタが多いようだ。先頃は専ら大相撲の日馬富士の暴力と貴乃花親方の理事解任問題が話題となった。

こんな話題を午前と言わず午後と言わず一日中流しているテレビ局は真にメディアが担うべき役割を果たしていると言えるのか、いささか疑問ではある。昭和の40～50年代頃、大宅壮一という評論家があった。彼は当時のテレビメディアを「一億総白痴化」の元凶と断じた。芸能ネタなどの低俗で無益なものばかり見せられている国民は想像力や思考力に低下をきたし社会的な問題にも疎くなるというのだが、今は当時以上に政治や社会の問題はタブーであるかのようだ。日常の会話でも原発や沖縄、憲法のことなど話しかけたらどうだろうか。恐らくそこには場違いな空気が流れ白けた雰囲気になるだろう。要するに日本の一般国民の間では政治の話題は世間話にもなりえないのだ。

先日、ウーマンラッシュアワーという漫才コンビを知った。ボケが村本大輔、ツッコミが中川パラダイス。彼らは正面から政治を取り上げ見事に漫才にしている。原発や沖縄、対米問題などを立て続けに早口でそれかなりの迫力で畳み掛けるような語り口だ。その一部はこんな具合だ。

（村本）「現在日本が抱えている問題は？」（中川）「被災地の復興問題」（村）「あとは？」（中）「原発問題」（村）「あとは？」（中）「沖縄問題」（村）「あとは？」（中）「北朝鮮のミサイル問題」（村）「でもニュースになっているのは？」（中）「議員の不倫」（村）「あとは？」（中）「芸能人の不倫」（村）「それは本当に大事なニュースか？」（中）「いや表面的な問題」（村）「でもなぜそれがニュースになる？」（中）「数字が取れるから」（村）「なぜ数字が取れる？」（中）「それを見たい人がたくさんいるから」（村）「だから本当に危機を感じないといけないのは？」（中）「被災地の問題よりも」（村）「原発問題よりも」（中）「基地問題よりも」（村）「北朝鮮問題よりも」（中）「国民の意識の低さ」

言葉の勢いは増して突き付けられたのが「国民の意識の低さ」。観客から笑いが起こるが最後に村本は観客を指さして言う。「お前たちのことだ!」。見ていて私も思わず笑ってしまったが最後の一言には参った。まさに今の状況を弾劾しているかのようだ。

彼らの漫才には賛否両論あり批判的な意見は「漫才に政治話は合わない」といった論調がほとんどだが、世間的な風潮に迎合しない勇氣はなかなか真似はできないし、政治ネタを正面から漫才にした彼らの力量は評価されてよいと思う。ただ、私が心配するのはそんな彼らが芸能界やメディアから干されてしまわないかということであり、今の日本ではそれが有り得ないことではないのだ。

私の心配が杞憂に終わることを願ってやまない

(M)